

## 職業実践専門課程の基本情報について

学 校 名	設置認可年月日	校 長 名	所 在 地		
せいとく介護こども 福祉専門学校	昭和51年4月1日	高 田 研 司	〒064-0811 札幌市中央区南11条西8丁目2番47号 (電話) 011-512-1321		
設 置 者 名	設立認可年月日	代 表 者 名	所 在 地		
学校法人 成徳学園	昭和39年3月27日	高 田 研 司	〒064-0811 札幌市中央区南11条西8丁目2番47号 (電話) 011-512-1321		
目 的	教育福祉施設等との密接な連携を通じ、より実践的な職業教育の質の確保に組織的に取り組み、卓越した実務の知識・経験に基づく高度で専門的かつ実際の知識・技術等を身につけ、教育福祉施設に必要な実践的な能力を育成するための専門課程を創設することを目的とする。				
課 程 名	学 科 名	修業年限 (昼、夜別)	全課程の修了に 必要な総授業時 数又は総単位数	専門士の付与	高度専門士の付与
教育社会福祉	こども福祉科	2年(昼)	1,770単位時間	平成6年文部省告 示第84号	
教育課程	講義	演習	実験	実習	実技
	495単位時間	1,020単位時間	単位時間	360単位時間	30単位時間
生徒総定員	生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
160人	63人	7人	40人	47人	
学期制度	■前期：4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～3月31日	成績評価	■成績表(有・無) ■成績評価の基準・方法について 筆記試験(60点以上) レポート、実技、授業態度		
長期休み	■学年始め：4月1日～4月2日 ■夏季：7月27日～8月19日 ■冬季：12月17日～1月18日 ■学年末：3月17日～3月31日	卒業・進級条件	教育課程の定めるところにより、学年ごとに修了すべき学科目について試験を行い、合格者に対して当該学科目の修了認定をし、進級・卒業とする。		
生徒指導	■クラス担任制(有・無) ■長期欠席者への指導等の対応 面談(個別・保護者)、居住先訪問	課外活動	■課外活動の種類 手話・バスケット・バレー ■サークル活動(有・無)		
主な就職先	■主な就職先、業界 児童福祉施設(保育園、児童養護施設等) 教育施設(幼稚園)、社会福祉施設 ■就職率 100.0%	主な資格・検定	保育士・介護職員初任者研修 ※幼稚園教諭二種免許 ※社会福祉主事任用資格 (※は近畿大学豊岡短期大学との教育連携により取得)		
中途退学の現状	■中途退学者 0名 ■中退率 0.0% 平成26年4月1日在学者 57名(平成26年4月入学者を含む) 平成27年3月31日在学者 57名(平成27年3月卒業生を含む) ■中途退学の主な理由  ■中途退学防止のための取組 ・クラス担任制、実習・就職のための学力確認試験・基礎学力を含めた補習、個別面談、保護者面談、教育相談日設定				
ホームページ	URL:www.seitoku-g.ac.jp				

## 1. 教育課程の編成

### (教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

教育福祉施設及びその他の関係機関との連携を充実させ、情報の共有や社会的ニーズの把握・分析を通して、地域や学校の教育方針をいかした特色ある教育課程の編成や効果的な教育方法の改善・工夫を行い、実践的かつ専門的な職業教育の基盤づくりに努める。

### (教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成27年4月1日現在

名 前	所 属
福 島 義 典	一般社団法人北海道介護福祉士会 副会長
瀬 戸 雅 嗣	特別養護老人ホーム 栄和荘 施設長
柴 野 邦 子	光星はとポッポ保育園 園長
大 澤 真 平	札幌学院大学 准教授
高 島 裕 美	拓殖大学北海道短期大学 助教
高 田 研 司	せいとく介護こども福祉専門学校校長
野 村 昌 昭	せいとく介護こども福祉専門学校副校長
奥 寺 光 子	せいとく介護こども福祉専門学校教諭
町 田 幸 作	せいとく介護こども福祉専門学校教諭
上 田 強 志	せいとく介護こども福祉専門学校教諭
浦 田 日出雄	せいとく介護こども福祉専門学校教諭
中 村 和 恵	せいとく介護こども福祉専門学校事務長

### (開催日時)

第1回 平成27年7月9日

第2回 平成28年1月21日(予定)

## 2. 主な実習・演習等

### (実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

施設現場において、学生が対人援助を実践的に学ぶために、挨拶など人と接するための基本や、チームワークにおける報告・連絡・相談などの心構えを十分に備え、さらに学習目標を明確に設定したうえで、有意義な実践を行えるよう事前学習を徹底する。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
保育実習Ⅰ(福祉施設)	習得した教科全体の知識、技術を基本とし、これらを総合的に実践する応用能力を養うため、以下のように児童及び施設利用者に対する理解を通じて保育および支援の理論と実践について習熟する。 ①施設で生活している児童または利用者への理解を深める。 ②施設の役割、機能について実際に見聞する中で理解を深める。 ③保育士およびその他の職員の役割、仕事の内容、求められる知識や技術の実際を学ぶ。 ④施設での実践を通して児童観・利用者観・施設観を作っていく。	柏葉荘・光友園・札北荘・白石かがやき園・ノビロ青年の家ほか 合計27施設
保育実習Ⅰ(保育所)	習得した教科全体の知識、技術を基礎とし、これらを総合的に実践する応用能力を養うため、以下のように児童に対する理解を通じて保育の理論と実践について習熟する。 ①乳幼児の実態に触れ、理解を深める。	札幌市しせいかん保育園、札幌はこぶね保育園、幌南華園保育園、菊水すずらん保育園、幌北ゆりかご保育園ほか、合計30施設

	②保育所の社会的機能や役割を理解する。 ③保育士の仕事や内容、役割について学び理解する。 ④知識や技術の確認をして保育の専門性を理解する。 ⑤保育とは何かを考え、保育観の基礎づくりをするとともに今後の課題を発見する。		
--	---	--	--

### 3. 教員の研修等

#### (教員の研修等の基本方針)

- ・教科や教育課題への対応など授業力と実践的生活指導力の向上を図るため、資質向上及び専門性を高める研修を実施する。
- ・実務に関する研修は、社会的ニーズの把握をした上で、施設等から講師を招いての研修や勤務経験年数に応じて職能団体等への研修への参加を実施する。また、職能団体等への研修を参加した場合は、学内で学科の専任教員・非常勤講師に対して研修についての講話を実施し、授業に関連した領域でグルーピングした教員・非常勤講師間での知識等の交流と確認を行う。
- ・全国保育士養成協会等が主催する研修会の参加教員が、全職員に対して伝達講習を行う。
- ・指導法の研修は、年度当初、小学校校長経験者による師範授業「学生の集中力を高め、実感の伴った学びを作る」を実施、教員及び非常勤講師が自由参観できる体制を作る。また、前期終了時にすべての科目について学生による授業評価を行い、後期の授業改善に生かしたり、学生の授業評価に基づき、評価の高い教員を選出し、各科の特性に基づきながら指導を工夫している授業を講師及び非常勤講師が自由参観できる体制を作り、再度後期に学生による授業評価を行い、個々の教員の改善努力等を検証する。

### 4. 学校関係者評価

#### (学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成27年4月1日現在

名 前	所 属
岸 本 隆 美	特別養護老人ホーム 青葉のまち 施設長
瀬 戸 雅 嗣	特別養護老人ホーム 栄和荘 施設長
柴 野 邦 子	光星ほとぽぽ保育園 園長
青 木 孝 志	障害者支援施設 白石かがやき園 施設長

#### (学校関係者評価結果の公表方法)

URL: [www.seitoku-g.ac.jp](http://www.seitoku-g.ac.jp)

### 5. 情報提供

#### (情報提供の方法)

URL: [www.seitoku-g.ac.jp](http://www.seitoku-g.ac.jp)

授業科目等の概要

(教育社会福祉専門課程こども福祉科) 平成25年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位数	授業方法		
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 技
○			憲法	国家の根本法である憲法に定める国家の組織・作用および基本的人権について、総合的な知識の習得を目指すとともに、主権の担い手である国民として、現実に発生するあらゆる政治的諸問題に関心を持ち、自分なりの判断ができるように、人権の存在意義や我が国の政治のあり方について理解を深める。	1 前	30	2	○		
○			経済学	1 経済学の基本原理を習得することにより、現代社会における経済の役割を理解する。 2 社会福祉や社会保障等の問題について経済学的思考を用いて理解する。 3 市場メカニズムの長所と短所を理解する。	1 後	15	1	○		
○			心理学	心理学の基本的理論として、「感覚・知覚」「記憶・学習・思考」「動機・感情」「ストレス・健康」の4つの領域について理解を深める	1 前	15	1	○		
○			情報リテラシーと 処理技術	コンピュータ、および文書作成(ワープロ)、表計算、プレゼンテーションの基礎・基本を習得し、情報活用能力の向上を図ることを目的とする。	1 前	30	2		○	
○			英語コミュニケーションI	言語はコミュニケーションの道具である。英語という言葉を使って、園児や保護者とのコミュニケーションをとれるよう園生活の具体的な場面で使われる英語表現を学び、身につける。	1 前	30	2		○	
○			健康科学	生命の基本的な理念、体力の保持増進、健康の意義を理解し、現代社会に於いていかに健康の保持増進について図っていくか学習し、生涯を通じた健康作り、体力づくりの必要性について理解する。	1 通	15	1	○		
○			スポーツ(実 技)	運動・スポーツをとおして健康の意義を理解し、現代社会に於いていかに健康の保持増進を図っていくか学習し、スポーツ(実技)生涯を通じた健康づくり、体力づくりの必要性について理解する。	1 通	30	1			○

○		保育原理	保育所は、養護と教育を一体的に行うとともに、こどもの健全な心身の発達を図ることを目的とする児童福祉施設である。その役割を十分に理解し、そこで働く保育士とはどのような存在であるのか、保育者としての資質のあり方を理解する。また、保育所に入所する子どもについての理解と現代における保育のニーズについて探求する。	1 前	30	2	○		
○		教育原理	1 教育者として豊かな実践を行うための、基本的な知識の習得 2 今日の教育的課題について知り、改善策を検討するセンスを身に付ける。 3 今後の教育とはどうあるべきか、自分の頭で考えることのできる力をつける。	1 前	30	2	○		
○		児童家庭福祉	・現代社会において、子どもを取り巻く環境及び困難について理解する。 ・児童家庭福祉における支援の現状を学び、支援者として必要な知識を身につける。	1 前	30	2	○		
○		社会福祉論	現代社会における社会福祉の意義、理念、さらには社会福祉の法体系、制度及び行財政の要旨を理解する。また、多様化する社会福祉ニーズに対する、専門職としての役割や援助方法について学ぶ。加えて、社会福祉サービスの公共性や利用者保護のあり方について理解する。	1 前	30	2	○		
○		相談援助	保育実践において相談援助が位置づけられている意義を理解し、対人援助職において必要とされる基本的コミュニケーション技術を事例を持ちながら習得していく。また、その過程の中で自己理解と他者理解の重要性を学ぶ。	1 前	15	1		○	
○		社会的養護	子どもの健やかな成長・発達には一義的に家庭での養育が理想といえる。しかし、虐待・非行・不登校など何らかの事情で家庭環境問題が起これば家庭に代わる社会的養護が必要となる。この社会的養護を中心に基本的な知識の習得を図り、施設における保育士としてのあり方を理解する。	1 後	30	2	○		
○		教職論	幼稚園教育要綱・保育所保育方針の成り立ちをしっかりと見極め、「生きる力の基礎」を培うためのカリキュラム論を考える。	2 前	30	2	○		
○		発達心理学	人の誕生から死までを発達と捉える生涯発達の観点から、人のこころとからだの発達を理解することを目標とする。特に保育現場にかかわる保育者が必要な知識として、乳・幼児期の特徴については重点的に学習し、発達の観点から子どもの発達を理解する。	1 通	30	2	○		

○		教育心理学	教育・保育現場で必要とされる教育心理学の基本的理論を理解することを目標とする。「子どもの学び・子どもの育ち」のために保育者として必要な教育心理学の知識やスキルを講義と演習から習得する。	1 後	30	2		○
○		こどもの保健 I	子どもの健康な発達と子どもの心身の健康増進を図る保健活動について理解するとともに、地域や家庭における子育て支援における保育士の役割を理解する。	1 後	30	2		○
○		こどもの保健 II	子どもの疾病の特徴およびその疾病の基礎的な知識、急病時の基本的な看護、小児期の事故の特徴とその予防および緊急時の対応や応急処置について学ぶ。また、こども虐待とその予防、子どもの人権を守るための教育、子育て支援における保育士の役割について学ぶ。	2 前	30	2		○
○		こどもの保健 III	1 乳幼児の年齢別に応じた成長発達について学び、特徴を理解することができる。 2 乳幼児の身体計測法を真菜義、種々の評価法を用いて発育の総合的評価法を習得することができる。 3 乳幼児の養護の仕方や日常生活習慣の指導の仕方を学び、援助することができる。 4 疾病や外傷の手当を習得することができる。	1 後	15	1		○
○		こどもの食と 栄養	保育者として保育の中での食生活の持つ意義を発達段階にそって理解する。調乳・離乳食・幼児食の調理実習及び食教育として生活全般への働きかけ等を演習を通して学ぶ。	2 前	30	2		○
○		家庭支援論	家庭の意義について理解をし、今日の子育て家庭の特徴を知り、いかに子育て家庭が課題を抱えやすいかを把握する。その上で、子育て家庭を取り巻く社会的状況や子育て家庭への支援体制について理解をし、ニーズに応じて支援機関との連携について理解する。	1 前	30	2		○
○		教育課程論	・教育課程の様々な背景を知り、教育課程の理解を深める。 ・教育要領・教育課程・指導計画の関係を学び、具体的に教区課程編成について考える。 ・編成・実施・評価・見直しのサイクルを通して、教育要領と保育の関係を学ぶ。	2 前	30	2		○
○		保育内容総論	保育内容とは、保育所や幼稚園で子どもたちが取り組む経験や活動のすべてであり、保育者の視点から見たときには養護や教育の実際の進め方でもある。5領域が保育・教育の中でどのように結びつき展開されているかについて学ぶとともに、保育士として発達過程に即した子どもの理解および援助が行えるような実践的な力を習得する。	1 後	15	1		○

○			こどもとリズム表現Ⅰ	子どもの活動は1つの領域にとどまるのではなく、他領域での知識・技術を関連させる必要があることを理解し、その上で、保育者として、表現する力を育てる必要性を実践から学ぶ。	1 前	15	1		○
○			こどもと造形表現Ⅰ	造形表現勝度のための指導計画（部分案）の内容・作成の仕方を学び、作成する。こどもの生活や発達段階にふさわしい造形表現活動の内容を実制作を通して学ぶ。	2 前	15	1		○
○			こどもと健康	激動する社会の変化が、保育・教育や福祉の領域に今までにない変動となって現れている状況において、「子どもにとって健康とは何か」を理解し、幼児教育における基本的な理念、体力の保持増進、健康の意義を理解し、現代社会に於いていかに健康の保持増進を図っていくか理解する。	2 前	15	1		○
○			こどもと人間関係	乳幼児期の人間関係がどのように育っていくかを学び、人と関わる力を養うために必要となる保育・教育の実践方法や援助の方法について理解を深める。	1 後	15	1		○
○			こどもと環境	子どもの発達における「環境」の意義を理解し、保育実践に必要な環境構成や保育者の役割を学ぶ。	2 前	15	1		○
○			こどもと言葉Ⅰ	「言葉」を使って人とコミュニケーションをとる、ということは人間にとって非常に重要なことである。生まれてから数年間の言語環境がいかに大切であるかを理解し、子ども豊かな「言葉」を育む保育者のあり方について学ぶ。	1 前	15	1		○
○			乳幼児保育	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本の保育の歴史と、今日の乳幼児を取りまく環境と生活について学び、社会と子どもについての見識を深める。</li> <li>子育て支援・親支援（保育指導）などさまざまな社会的ニーズを知る。</li> <li>乳幼児期の子どもの発達・生活・あそびを具体的な実践をとおして学びながら、子ども理解を深めると共に、保育者の仕事・役割を理解する。</li> </ul>	2 前	30	2		○
○			障害児保育Ⅰ	さまざまな障害の特性を理解するとともに、生涯に対するとらえ方を考える。障害児を取り巻く環境と、家族支援や専門機関との連携を理解するとともに、支援現場における保育者・専門職としての役割について考える。	1 前	15	1		○
○			障害児保育Ⅱ	実践的な演習を通して、障害の理解を深め、さまざまな視点からアプローチを学ぶ。事例などを通して、支援者としての基本的な考察ポイントを学ぶ。	1 後	15	1		○

○		社会的養護内容	<p>1 児童福祉施設等に関する養護の内容を理解する。</p> <p>2 各施設の目標と対象、養護の実際、職員の現状、今後の課題について把握し、理解を進める。</p>	1 後	15	1		○
○		保育相談支援	<p>1 保育相談支援の意義と原則について理解する。</p> <p>2 保育者支援の基本を理解する。</p> <p>3 保育相談支援の実際を学び、内容や方法を理解する。</p> <p>4 保育所等児童福祉施設における保護者支援の実際について理解する。</p>	1 後	15	1		○
○		こどもと音楽表現Ⅰ	保育内容を理解し、保育の中に音楽を用いて活動ができるようになるために必要となる基本的な知識・読譜力・ピアノ奏法を学ぶ。	1 前	15	1		○
○		こどもと音楽表現Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育内容を理解し、それを展開するために必要な技能を習得する。</li> <li>・より高度なピアノ奏法とこどものうたの弾き歌いの技能を習得し、保育の現場に活かすことができる能力を身につける。</li> </ul>	2 後	15	1		○
○		こどもと造形Ⅱ	保育内容を理解し、平面的な造形に加え、半立体的な造形、更に伝統的な技法も学ぶ。生活の中の遊びや環境を豊にするための実践的な保育の題材を学ぶ。	1 後	15	1		○
○		こどもと体育Ⅱ	子どもの生活の中心は「遊び」である、その大部分は「運動遊び」である。そして何よりも楽しくなければならない。子ども自らが「遊び」と取り組むことが大切である。そのために指導者が多くの運動遊びの指導方法を理解し、年齢や環境に応じて子どもたちに提供できなければならない。このことから、講義・実技をとおして、発育発達に即した指導法を身につける。	2 前	15	1		○
○		こどもと言語表現	保育現場で場面に応じた言葉の効果的な活用法を習得する。子どもの言葉の発達や遊びを豊かに展開するために保育者の役割を理解する。	2 前	15	1		○
○		保育実習Ⅰ (保育所)	<p>1 保育所の役割、機能等を実践現場での体験を通して理解する。</p> <p>2 既習の教科全体の知識・技術を基礎とし、これらを総合的に実践する応用力を養う。</p> <p>3 次年度の実習に向けての必要な知識・技術等の課題を明確にする。</p>	1 後	80	2		○
○		保育実習Ⅰ (施設)	職場体験を通じて施設職員としての仕事をする上で必要な知識、技術、援助技術の内容を理解する。講義、演習で学んだ知識に基づいて利用者との人間的な関わりを深め、利用差が求めている社会福祉の需要に関する理解力、判断力を養う。	1 後	80	2		○



○			保育実習指導 I (保育所)	保育実習における計画や記述などの方法を学ぶとともに、社会人として必要とされるマナーや知識、実習生としての学び方や配慮などを習得する。	1 後	15	1		○
○			保育実習指導 I (施設)	1 体験実習の重要性を理解し、学校で学んだ知識技術を具体的に実践場面で生かすための態度や姿勢を理解し、実習準備を行う。 2 実習における実践学習をフィードバックし、その後の学習につなげるためのまとめを行う。	1 前	15	1		○
○			保育・教職実践演習	1 幼稚園教諭としての職務内容(保育・園務等)を知り、実践力の必要性を自覚する。 2 幼稚園教諭の資質・能力を確認・向上させ、指導力を身につける。	2 通	30	2		○
		○	人間福祉論	人間らしく生きるという普遍的な人権感覚をベースに「与えられる」福祉ではなく、「自己決定」を貫く真に二元らしい福祉を実現でき、福祉における人間理解の視点と展開について専門性・倫理性について習得させる。	1 後	15	1		○
		○	人間関係論	乳幼児の生活環境の変化に伴い、家族のふれあい等による人間関係が希薄になり、保育者として、人間関係を育てる知識や技術を習得し、情緒の安定と自立を促す大切な要素であることを理解させる。	1 後	15	1		○
		○	こどもの保健 IV	子どもの疾病とその予防のための適切な対応方法および救急時の対応や事故防止、安全管理について具体的に学び、保育現場において必要とされる保健について、より具体的かつ実践的な知識を身につけさせる。	2 後	30	2		○
		○	発達援助論	人間の発達には、それぞれの時期に欠かすことのできない体験がある。それぞれの時期ごとに子どもに経験させ援助が必要である。その発達の援助の観点、内容、方法について具体的に習得させる。	2 後	30	2		○
○			こどもとリズム表現 II	1 幼稚園保育所における領域「表現」の内容を学び理解する。 2 表現する力を育てるための保育者の役割と援助の方法を学ぶ。 3 表現する力をそだてるための手法を身体表現・音楽表現の分野から学ぶ。	1 後	30	2		○
○			こどもとリズム表現 III	1 幼稚園・保育所において、必要な表現音楽を実践で学ぶ。 2 オペレッタを通して創造性を養い、表現を身につける。	2 後	15	1		○
○			こどもと表現造形 II	乳幼児期の表現活動の大切さと発達過程や造形的な表現の特徴などを理解する。遊びのモノの関わりから「えがく」「つくる」「造形あそび」など造形表現活動の援助のあり方を制作体験をとおして学ぶ。	1 後	15	1		○

		○	こどもと表現 総合	すでに既得した保育内容で学んだ保育技術をベースにして、グループワークによる演習の中で指導計画案の立案、実践、評価をし、あらたな学習環境や学習目標を明確にする。	1 後	15	1		○
		○	こどもと健康 Ⅱ	「健康Ⅰ」の内容を基本にし、より多くの事例を読み解き、ロールプレイを通じて、さまざまな子どもたちを健やかに育てていくために必要な保育者としての専門的な知識、技術を習得する。	2 後	30	2		○
○			こどもと音楽 表現Ⅲ	保育内容を理解し、保育の中に音楽を用いて活動ができるようになるために必要となる基本的な知識・読譜力・ピアノ奏法を学ぶ。	1 後	15	1		○
○			こどもと音楽 表現Ⅳ	保育の表現技術や実習で生まれた新たな学習課題に基づいて、ピアノ等の音楽器具を使用し、子どもの経験や様々な音楽活動と音楽表現を支援する技術を高める。	2 前	15	1		○
○			こどもと造形 Ⅰ	造形の基礎技術をもとに、えがき、つくるための材料や用具の取り扱いと制作活動を通して造形感覚の基礎陶冶を図る。また、こどもの生活、遊びと関わる造形表現制作を行う。	1 前	15	1		○
	○		保育実習Ⅱ	1 保育所の保育を実際に行い、保育士としての必要な資質・能力・技術を習得する。 2 家庭と地域の生活実態にふれて、子どもの家庭福祉ニーズに対する理解力・判断力を養うとともに、子育てを支援するために必要とされる能力を養う。 3 実習を円滑に進めていくための知識・技術を習得し、学習ない用・課題を明確にするとともに、実習体験を深化させる。	2 後	80	2		○
	○		保育実習Ⅲ	保育所の他の多様な種別の児童福祉施設等の養護・支援を実践を通して学ぶ。特に個別支援計画に基づいて行われる養護・支援について実践的に学び、保育士として必要な資質・能力・技術の習得に努めるとともに、対象者の個人差やニーズについての理解と対応について学ぶ。	2 後	80	2		○
	○		保育実習指導 Ⅱ	保育所の保育を実際に行い、保育士としての必要な資質・能力・技術を習得するとともに職業の理解、子どもの理解を深める。	2 後	15	1		○
	○		保育実習指導 Ⅲ	地域社会における児童福祉施設等の役割を理解するとともに、施設において行われる個別支援について学ぶ。また、当該施設における利用者の状況、支援内容等を学び、実習内容をより具体的に計画する。	2 後	15	1		○

○		教育方法論	初等中等教育(小学校・中学校を中心とする)と幼児教育(幼稚園、保育園)を対象として、その中で行われる教育の方法・内容についての理論的かつ実践的な理解を深める。	2 前	30	2	○		
○		教育相談	子どもたちが、一人ひとりに即してよりよい教育が受けられるよう、幼児理解を深め、より適切な指導助言ができるように、教育相談の基礎理論の理解と実際について学ぶ。	2 前	30	2		○	
	○	教育実習	1 幼児の観察や関わりを通して、幼児への理解を深める。 2 幼稚園教諭の専門性と職業倫理について、具体的な実践に結びつけて理解する。 3 幼稚園教諭としての自己の課題を明確化する。	2 前	160	4			○
	○	幼児教育実践	うた、リズム運動、手遊び、絵本読み、制作活動等、幼児教育現場において求められる技術について、実践を通して学ぶ。	2 前	120	8		○	
○		教育実習事前・事後指導	1 幼児教育の基礎理論・技能を学ぶ。 2 教職の専門的知識や技術を学習し、教育現場で応用し得る力を養成する。 3 保育者としての自覚や使命感を身につける。	1 後	15	1		○	
○		卒業研究	幼稚園における教育課程の意義、遊びを通じた保育のあり方やその意義、幼小連携の意義などについて、教育実習での体験を踏まえて自らまとめ、有用な知識とする。	2 前	15	1		○	
○		こども学概論	1 こどもの健やかな育ちを願、こどもを取り巻く問題を大人の視点に立って考えるのではなく、子どもの視点に立って考える。 2 こどもが育つ基盤である「家庭」「地域社会」のあり方が変化していく中で、次代を担うこどもが「育つ力」すなわち育とうとする限りない力をもっていることを理解する。 3 発達過程にあったあそびの実際を考え、その指導法を身につける。	1 前	30	2	○		
○		こどもと文学	・児童文学の理解を深め、次世代に児童文学の魅力伝えることができる。 ・絵本の読み聞かせが自信をもってできるようになる。	2 前	30	2	○		
○		保育制作Ⅰ	保育園や幼稚園で使用される、エプロンシアター、パネルシアター、紙芝居などの視覚的教材を制作し、それをういた保育の展開の仕方を学ぶ。また、設定活動を行う際の導入や指導技術を身につける。	1 通	30	2		○	

○			保育制作Ⅱ	・保育の現場で必要となる制作活動の指導方法を実践を通して学ぶ。 ・創作活動・表現活動に必要な技術と知識、保育者としての指導能力を身につける。	2 通	30	2		○
○			こどもと音楽	1 保育内容を理解し、日々の活動に音楽を活かすために必要な基礎的な理解や技術を学ぶ。 2 音楽の楽しさを子どもたちと共有できるような基礎力を学ぶ。	1 前	30	2		○
○			こどもと体育Ⅰ	子どもの生活の中心は「遊び」であり、その大部分は「運動遊び」である。そして何よりも楽しくなければならない。子ども自らが「遊び」と取り組むことが大切である。そのためには指導者が多くの運動遊びの指導方法を理解し、年齢や環境に応じて子どもたちに提供できなければならない。このことから、講義・実技をとおして、発育発達に即した指導法を身につける。	2 後	15	1		○
○			障害者支援論	所外の有無にかかわらず、人間として地域の中で共に寄り添って暮らすことのできる社会の構築を目指すため、その方法を探り実践に結びつける方策を見出すことを目的とする。	1 後	30	2		○
○			保育実習対策Ⅰ（施設）	職場体験を通じて施設職員としての仕事をする上で必要な知識、技術、援助技術の内容を理解する。講義、演習で学んだ知識に基づいて利用者との人間的な関わりを深め、利用差が求めている社会福祉の需要に関する理解力、判断力を養う。	1 後	15	1		○
○			保育実習対策Ⅰ（保育所）	保育実習における計画や記述などの方法を学ぶとともに、社会人として必要とされるマナーや知識、実習生としての学び方や配慮などを習得する。	1 通	15	1		○
○			保育実習対策Ⅱ	保育所の保育を理解し、保育士としての必要な資質・能力・技術を習得するとともに、実習を円滑に進めていくための知識・技術および課題を明確化する。	2 前	15	1		○
○			教育実習対策Ⅰ	1 教育実習の意義を理解し、自己課題を設定する。 2 幼稚園教師として必要な資質を学び、保育を構築・実践する力を身につけ、実習を通して、新たな課題や学習目標を明確にする。 3 幼稚園教育の楽しさと難しさ、やりがいを感じ、幼稚園教諭への希望を高める。	1 後	15	1		○

○			教育実習対策Ⅱ	1 幼児理解に基づいて指導計画を立案・交流し、指導について検討する。 2 教育実習の成果と自己評価の交流を行い、今後の課題を確認する。	2 前	15	1		○	
○			卒業研究Ⅱ	2年間で学んだことを活かし、総合的な創造力・表現力を身につけるとともに、表現することを通して、保育者としての指導力を養う。	2 後	15	1		○	
合計					78 科目	2,120 単位時間 (123 単位)				